



アリが砂糖だけでなく、チーズやかつおぶしに集まるのはなぜ

あまい物が好きなアリは多い

アリは、あまい物が好きな種類が多いといえます。よく見かける、体長が1センチメートルぐらいあるクロオオアリとか、アリマキやカイガラムシの世話をし、それらが出すあまいみつをもらうクロクサアリ、花のみつをなめるクロキクシケアリなどが、あまい物が大好きなアリです。

あまい物に集まるアリは、おもなえさとして、花のみつを集めます。アリの体内には、自分の胃とは別に、みつをためておく「みつ胃」があります。巣の中には、仲間の集めてきたみつを口移しで受け取って、「みつ胃」に集め、自分の体が貯蔵庫になっているアリがいます。

たんぱく質のえさも集める

これらのアリは、たいてい、みつのほかに、こん虫の死がいなどをせっせと集めてきて、その肉じるを、たんぱく質のえさにしています。巣の中にいる幼虫を育てるのには、たんぱく質はかせません。ですから、たいていのアリが、おいしいたんぱく質である、チーズやかつおぶしも、喜んでえさとして、巣にもって帰ります。また、同じアリでも、こん虫やミミズをおそったり、死がいを集めてえさにするトビイロシリアゲアリやクロヤマアリは、肉食性で、あまい物には集まりませんが、チーズやかつおぶしなら、すぐやってきます。

ただし、クロナガアリののように、草の種しか食べないアリは、あまい物にも、チーズにも近寄りません。（監修・中山 周平）

